鉄砲伝来

鉄砲はいつごろ、どのように日本に伝えられたのでしょうか。

鉄砲は天文12年(1543)頃、九州の種子島(たねがしま)にやって来たポルトガル人によって伝えられました。当時の島の領主、種子島時尭(ときたか)は鉄砲の威力におどろき、大金をはらって２挺の鉄砲を譲りうけました。そして、みずから鉄砲の打ち方を練習し、家来たちには火薬の作り方を学ばせ、鉄砲作りも研究させて、国産の鉄砲を作ることに成功しました。鉄砲はこれにちなみ、種子島とも呼ばれました。

種子島から泉州堺（せんしゅうさかい，現大阪府堺市）や紀州根来（きしゅうねごろ、現和歌山県那賀郡岩出村根来）の商人や僧侶によって近畿地方に伝えられた鉄砲は、ここから日本各地に広まっていきました。

鉄砲が広まったことで、戦国武将たちの戦いも大きく変わっていきました。この頃から鉄砲を持っていた歩兵（ほへい）の集団が戦いの主力となる戦術も生まれました。中でも鉄砲をもっとも利用したのが織田信長（おだのぶなが）でした。

天正3年(1575)、信長は徳川家康(とくがわいえやす)と共に、当時もっとも強いとうたわれていた武田勝頼（たけだかつより）の騎馬軍団（きばぐんだん）と戦いました。このとき、信長は鉄砲３千挺を用意し、武田の軍団を破りました。この戦いを長篠（ながしの）の戦いといいます。

この戦いの後、戦いの中心は馬に乗った騎馬武者から、足軽（あしがる）に代表される歩兵の集団に変わっていったと言われています。そして、戦いに勝った信長は天下統一（てんかとういつ）にむかっていきました。

鉄砲足軽（こがしら）の装備
「雑兵物語」

注：てっぽうは鉄炮とも書きますがパンフレットでは常用漢字表記の鉄砲で統一しました。

発　行：新宿区大久保特別出張所　　協　力：新宿歴史博物館